



## 岩 产 代 國

八月十五日

施王五十嵐建敬書とる五十嵐孝和皇書とよる一五十嵐孝和皇書とよる。

三月西北

490,9 An-4

No.5013



富士川文學

928

夏時 康然 途 爲 嫁 十二 夏る り、を 4 里なり 安等 11 速 有き 産を 12 上七 IST 牧の 下 11 仙坊 h 此艺 をなると 夏 0 食を 懷 志 有ちる 新 書が 山 か 深了 胎で 成け 数彩 のおき 却多 \* 家や 累さ 病色 11 鸣 自り 婦養 自ぎに 婆も 誰あ 1 1 医を 教旨 遊 家怎 呼と 出為 讀せ 谷富 心等 此社 E も常 無 13 考公 本に 女の T 是力 雨き **持**以 眼郎 法た 可上 12.1 越至 条を 讀せ 物を 医 手う 背め 危ぎ 見 2 聞 居 書名 1= 言に 症是 1117元 所 爲む 綴 當るて 級 圖st 五 精 か 村与 1= 施 もちる 適 重要を 十京 益的 内が 委 頼 争公 當 年ねん 見智 物電 過 0 婦 于也 人主 孕5 連に 混も 成 先言 字人 校と 馬を 雜 婦養 用书 理点 谷沙马 労や 成於 惑 拙 共だ 經 志た 逢。 屯 酉裹 颗: 答公 起? 却 身 並ね せだた 飢" せ 进校门 善 y. 本等 て是京 立ち 取 悪など 意 思的 18 ちなか 要? 0 医なと 頭型 非是 一品も 開がど 心三 不 可一 趣為 掛き 無 非色 居 別を 17 爲 所着 產 日子 蘇 類の を 毎に 自 婦寺 故" 騒ぎ 初至 住人 七方 産ま 世世世 て 子の 石 交 聖言 臨さ 話を 我の 家。 和宝 代下 為電 150 風な 産に 0). 鸣 夜よ 得を 龄了 粉 **建** TI.E

信義 安 產 翁 喻 此 研 全

UC

婦老 夫各 0 懷 共を 胎室 結だ 旧は 33 而に 固智 戦を 華人 病~ 140 舟で 12 非常 異素 音ぎ 端等 草色 木きに 攻の 0 質が 巴松 結り 赴 熟念 廣る 如言 落に 如方 # 死的 127.11 然次 生に 境 金公 難け かろ 產 京 或ど 教 急か 也有 凌が 共由 別して 絕多 带与 等: 有を 1E 胎本 **计**全志 害以 不り 或き 2.5 9年 也多 譜つ 何

程不

肌ら

帯が

強あ

共

10

0

膨ぎ

勢

限

有な

37,8

IL9

者

非

身里

か

而

唯

徒だ

病も

曹襄"

而っ

巴力

絶到

肌克

致意

無

8

7

聴る

月卡書

産さ

0

難な

11

胎

0

大だ

1:

国よ

不

2

れで

居"

形かり

9

直芝

居

形

ち

而多

P.T

非

時間

酸多

きま

美

較ら

言智尔

物き

214

石岛

\*

木的

根常

間

樉

0

育ち

悟

图

内子

自分

虚ぎ

を

自言

神智

北元

3

致

1=

田水

8

胎亡

8

苦高

受包

7

據:

-

首系

則? 肌至 且多 或り 消息 居て 重 人り 眼影 力を 逆系 带衫 真る 產 延べ 産え 理り 中書 後日 班 150 天人 8 且和 病な 終之 海 教光 帯び 恶 後二 面是 下的 か 姑素 発る 血馬 直ぎ 13 ち 或力 或 後 或 2 是り 之人 100 才員 公 3 何~ 12 别心5 公 12 12 か 填? 育ない 限 或な 带系 ルい 四国と 腰、 残 傷人 苦蒙 及等 発言 志 交 服? 絶す 迷芝 痛な 且常 或に 孕数 中に 致 可べ 肌しび 9 產為 蛔は 受皇 題主 机员 昼を E 用李 天ん 带於 或為 带 或 股だ 或ふ 湿色 胎鏡 台が 致 志 3 78 生士 無世 或為 少 傷 争多 疼 然り 胡 或多 胎色 期和 舌小 11 白 8 を 海管 爛え 是な 且等 相重を 胎や 者 何 因 马 產 1: 便が 瓜り 心方 0 0 或 或 荒き 干却 能 软中 逆 1=,4 驰\* 3 江頂ん 秘 か 志之 等等 所: 発の 或 下 北美 発う 斗了 美文名 同と 4 开久的 とは 展り 八標 位じ 或或 **我** 謂於 或り 月四 單べ 哉 利け 8 村等 成ら 250 月工学》 8 チャの 月書 中基志 或り 女带? 或 朝中 共 岩幕 抬着 突 頭 致は 指说 等は 可考 満づ 一いるつけ 或等 青紫 3 な て 白 TON 11 色ろ 困なん 中美で にも 意为 杯 力黑 此分 势 然是 居 を 少公员 冒 蹈药 痛 志 力 きも 少多 酉の 苦ぎ ~ 或り 勿是 を 或分 0 儿教 n 胞ご 1= (2) 8 りて 発だ 液等 11.5 或 発が 懂 害 總 0 fin 3 特德 志 を 肌与 强 強っ 産や 下去 或 和智 或も 带以 受き 無 亨 胶人 動 媛を 22 毛に 8 0 致势 前季 有意 安二 想 力多 5 + 結ず 乳 或よ 驰 括 水意 推礼 9 置って 或茶 所き 響冷 痔 置 発 台ない 終了 **身本** 產分 捷談 雀 鳥る 病8 友り 或多 或 発で 目に 經世 熱 乗ち 疑る 林 病药 0 発た 育なり + \$ 或分 或。 渋き 発が 或 驰 A T 発明が衰 勿 今しま 1 膨ち 8 11 2.1 発り 鳥の 致意 ち血ち 13: 終 所持 節等 15 病人 量る 入章 古 W い 育地 宮家 例を びる付ろ 且ま 或ち 完き the 或さ 科芸 総該多 2 7 13 任り 胺 発 斜部 血力 產人 成 類あ 考多 諸ま 或 软力 野門 1= 7 か 加克 痛た 製 病 或 可人 行等 前 或 育 ナニ -王圧が 致為 発する 宜人 宮で 時个 横さ 經分 24 或り 枯" 或 発き る 固 を 胎的 白き 或 手を 折め 挽い かり 能 林克 節 守 淡毒 産さ 堰素 独と 0 膧 水道 酒石 任前 天元 勿上 3 高 膻 月をう な 北京 3 痛を V.Y 大学 色。 痒さ だ 美大 中方 発だ 理》 200 于上 或為 吹き

此 黑 ね 婚 柿 同意 迫芸 間 于 道た 中心 游 少り 下ろごとにきるちが 捻り 一文? 鬼 平品 浦; に自身ま 目 参 えやウバンクロウの水へ 致为 而? 入言 水力 病ぶ 傷 或多 1 1717 E 省美 月に 7 1= 重も 野 愛り 动态 方 率等 服の 產 痛至 故5 8 下 肢 らくなったろかくなったらの中がひとくいたか 0) 血 XX 探 強を 境な 問之 出至 ひつちめ 蛇も 可,可, 脊せ 笑 門之 者 引 無を 者を になずの 鳴り 員 田つ 水 藥 終 血素 か 3 會 1 大 ルノン 納 見なる 而为 状的 生き 螺衫 或 試 をひやせ 方尔 うちろ 症 又ヒヨス三分かりだ点てのり 駅や て 方 0 を記 食香 一久 をか 20 をなるを表 也 女口る 分で 可 一眼 見 て 心觉 11 何多 あら 騎た 且表 心心 勿なけば 湯、 気が 出 四及: 0 倒 拾 前か 歯 下方 初为 因かりか せ てなりの 魚 根 如 可苦 出き ٤ 5 - ¥ 掛き 持 產 神 7 6 7 浸到 婦が 日号 全で 或 置さ 歯を 泰克 方尔 賜 7 7 血の 尼多 分え 心意 繋ん 3] 產 鬼をるる 治炎が な P 額 11 勿 酒石をからハルス五分合のあ 口も 間管 死去 を 是治 好 居里 前さ 屐 ナニ 教は 無為 発 上 を公会 校朝 ロち カも 食欠量 元 恐节 施竹 常、 宫 明毛一分五 下 て 眼的 1 今等 学 を水に入気 産之 共も 也是 綿 宜意 甚 女口? 为 可 0 四部 五學 而智 心意 **危易** 且さ 病 目の 元 で売せ り挽茶三分 **治文**ど 金 如此 中多 下。 素一 崩が あて、 を 何う チス ちとのどがな 是也 月寺に 産者 モ物の 驰 急 禁 3 中央主 1= 1= ~ SIL 外的 强了 蛔を 病 足 終記 出 我 用の 大 7 症 200 押書 則不 をた 會計 う 頰尔 疝为 00 替 可 斜が 指 11. たったを 明公 连, 血 何た 急与 苦さ 女带花文 幽 身至 所 門 崩 播 を 何に 明ける 次だ たらいい 障前 居が the 3 故さ 四分 か 闘る 指於 1 勿与 12 補化 膨为 合致された できる 棒等 海等 十二分たろのろ 開冷 心意 3] 屈 火管 無り 15 いたんで下ろにも、からあ 食 血力 者が 女有 んきがき 事的 吹 品 曲 任乾 1 症智 発な 粒ない 直 ぞ 宇需电 北京 8 吹き 耶 7 る 1= 而是 大 如 午~ 產 に自級 绝 勿出 腰ち 12 〇ぱかななこといろの 呼了 足製 九多 与重 学能 引 11 中" 逝、 冬 ٤ 思。 8 血力 立ち 便人 世 豚 筋 颜 ナニ 0 **省处** 可 禁息 遍為 8 TC 間が 李节 0 促就 Kitasato Memorial Medical Library

党击 北色 こに出てあいせてのながよ ロもらうらさいろに見られる子いとが取のきにあなまかといを又をあ月にないといくかでよくでる 時前、産前腰に灸致可腰股疼婦も宜便秘甚者 致 何心無 改ち 胎二 の痛 カ もりたとだら子がもできを付てころ 子がたまったらまでのきむと生るぞ りん月にまいにいたい に小便快 後若頭痛若唇下痛発有い患部 を水がか く心中 まならていたしとあたまをひかもべき 成が 2 " 7 る湿無段 秋何 一一の ル州から主人てのめ 産思力 眼 きてきをまてれむきるとあつにまてれむらせち さ 肥下路 く下できるに子きなが看色だを レ五分 産門湿と努力と産門一灰脹、何ら産先門而此症無ましいなる きょうきょうことをあ 爲 に液が暴下て液が下た前 ろ 如更限痛無人色紅鲜活血要湯 中渴発数度眩晕心唇了頭唇青白夏 日産致 道押塞年〇終日水一入居为十 なな時 快通る法て快通魚る通半路に押塞度々一滴通不 霜夜月清如而更眠致急止無忽死 産月に将下緊痛重産門湿無い産 置 にもらにさるかいならい三日が内に生きるぞ 門の以物押出 可 橙 と 編無更産催無急に産 ○ 阪即る痛無少腰限緊疼急に努力が発来産の り左或方 葉五分サ 所言 ○ すらいりぬをからかるととをヨスマキステリンないサアレップニタのせんが汁ですめ ○ なつき酒をサンタンサンソウダ本かでく合て水でのないよ 教知義共夜らずり 産台戦慄尾無内い産さ を心被 右一倚下 日をたいてもよめくうにをろかぎりとこののまりこ二かで合める フランラかりなち 出被る俄版为失急心下了鬼悸 子膜を剥劣しき 下心下驰寬城食の押下快成 ○さいきっちでる血いなせいやむ ○ ちがををつたる 九月めにとらが三尺四五寸まとろべ三子四尺里寸まとる人四子 白くうあり一下はのかちろときのいむは 一軽附血 も後に たまにあた 勿十之九雀目に成者ぞ 門 に致服可 在無婦有或る に見と も販売がま 一緊突脹來做に生 如 ○ せらかりでいたもきならいでとらこふせんかりもべき コリンかとり 04 甚者 ミン 十分吸せ可の九之月當側野なったにまいべましてのつきのよれなりのの 古古書 公里 ぬぞまし りも 四肢厥冷肢脈が種逆幹 物の前如体 口女 血にきか有かりであるべ目が テ センナ 呕る 催 4 とを ましいあめらいもびてそう 8 レリ精一多多なちまてのむが 小べんさけくなだのも 産腰阪痛 門學 が無い農力 水かきをかまていろ やウギッだ 頭可 阪痛 があつ 発ぬりち も胎動が間遠城る 葉 如 そ 後から時 一久 北岩 覚膏肓苦く耳鳴 る婦間有ぞ 3 時無音 8 ○産なるの 2). 催產 間記 の遠間 い産無婦は 何も思う 子の小父のむもよいるのぞ 1= 阿黄 できんを 本福 有 Kitasato Memorial

决的 症る 胴t, 谷久? タトき 120 先 下 疲多 無多 美な 古と 卷品 下の 北美 液分 部 物の 痛た 膜も 有で 待ち 如言 可言 8 有 が 2 有ら 或ま 血艺 あ 直な 時や V 531 カる 内上 者があると 内 共 めの 題も 下り 求が 知 展<sup>产</sup> かよ 死节 か 品节 門 可志 育等 內 13 液 ガ me ~ 名 痛 崩がいけ ち 破 候 8 种 胎一 8 智文 者。 地 無け 香 液 下 下り りきた 6 15 出意 努" 之有多となっ 0 也 -膜为 題が 內意 未 7 ぞ 1= 3 血つ ナニ 3 がまた 痛 症を 痛管 突 面で 疲? 産を 節 後言 1 13 前或せ 岩点 ス 膜が シブ 四节 决。 退力 床 度。 或色 成ことやひたけやまねい生ぬも 冷む 内 產 11 0 b 後に 耳 内だ A. C. 女口艺 俄ま 屯 肚ぶ 赤の 兼 11 途 以と 産人 7 九 (= 二分小 問が 日ち الماذ 有る 門名 上をって 却分 崩にて 者 甚 ぞ 液 7 後 にか 5 方 まるま 有多 過か 症以 直為 否言 者と 11 退 13 心下 困 往文書 4 (4) 松さる 子 変まれ 8 膜 2 借 苗 \* 7 區け か 宫不 乳艺 着多 産為 別べ 且 多か 途上 候だ 外 産 流 班 居 赤を 法 ぞって 崩けっ 北京 即や 產 がぬける 未奉 液药 頭切 可 腰 海京 頭。 至差 二分 至为 自5 也がり 逆 或 ガ 4 1 X 3 mil. 清 耳 也是 症 呼不 症の るまた 粮 婦的 毛け 有喜 経せき 月夏人 水ど 鳴から 以で 液分 31 有尊 緊急 指を 敷外 ナン てある 11 知尔 て 力 上艺 破さ 指引 痛气 産する 膜 出るの 可影 夏花 森5 が帯さ をのいきる 頭 下 0 m\_ 催 血ちょう カロオ 外 みで 成ら 居公 力 n 者と 4 床馬 婦 6 鱼 fir. 0 5 撹が 根 にあぬ 作之 而 產者 11 ぞ を 有が 下り 液 流 教が 待 痛だ 産ま 出き 膜也 硬 迴 ,5 力 ナニ 11 出され 可で 前に 稜灯 出だ \* 補 言式る 内 過 自でかる 備 かで 8 0 なきつう 下前 21 後。京 半人 上 有 產 液 且 発る 7 8 をきた ながだく水をつ 下女 カロな 節 膜 經 時 7 症 を をきない 如 待多 あい 0 可 痛な 北き 油系 流 ら 起 8 而た 可以 活を 液意 時 北郊 休 產 11 **治文**ネ 力口 胎を 有為 软 颗 志 Ado 折 8 2 滞等 崩 13 癖 A line 612

宮谷 強 開行 を 空は 産さ 產眼 過量 女与 量で 腹系 衣き 但 5-3 外 2 弱上 を 後ご . 1 一枚八下 別いう 府京 托 か 産 引管 引ち 否? 子 勿 音た 出方 丰9 大だ 門の 下的 を 11 食 可世 語5 5 極為 屐 左 可 產等 出 D 言論を 10 成品 此次 托公 努意 古外 が 引 意ろ 勿 L 床に 自 産う カる 尾志 法を 度 迎多 展書 頰5 17 股分 12 府な 自 心事 可满 打台 門っつ 追 触り 脉 催 隨 屯 **隆**色 掛電 然で 膜が 出小 発を 下 权 宜志 て 野菜 堅 内节 n'i 近まで 股 下意 産さ 発 胞% 門部 身に 日も 換なが 天 神寺 が 漢是か 金魚 去 液 後ご Tine 3 成を 3 水系 産の 居 才甲+=" T 発 7 すとだ 平的 下了 1長さ 額 のゆうするだと 可 発を 7 起 枕 來が 12 兼る ぞ 体和 者 小人 可 包 0 台 志 現る かい 月工名 且 17 11 水う 頭が 1 道 7 幽 世 出ら 且なく 仰雪 必然 ? 悶き 腰寺 脘と 為 0 手がり 出る 日上かり 才甲為 再れ 塞う 7 服5 餃け 10) 時 吧 肌是 痛 井了 谷欠 突 或 口支 強う 為 て 李弘 帯な 節き 努言 を 生 月長で 作品 りんがだらだりら 手 因う Ł 別しすご 発ら とき 発る 角罗 達? 閩東 いが努力 金がら 深 交 力 発表 b 10 存金 代言 直き 家も 或っ 程" 13 腰 水 放 進 A 3 较為 勿ち 畳た 77 5 附 取多 苦 勿为 急や 肠 休 緊 呼ぎ 中岛 去老 季 F 牛で 端之 月夏ら 物。 但 休き 深色 卫高 胎 産ま 快 克 光 74.5 進 動かど 水药 足 漸だ 胞炎 1天 門 道是 部 位 當為 胞ざ 0 4 故 衣が 脈が 驰 管だ 節 鎮其 下了 Ko 月工名 致。 老人 11 以で 待? 火田 托马 過 7= 钦 9 中的 相影 強 門 而た 愈 初春 3章 17 取 重る Kitasato Memorial Medical Library

食に 过了 中人 故气 産ま 在 祈ろ 身を 胞さん 且 1 門 11 指 下記 いちたど下法にくせる 探北 題事 施电 胆 胆分 0 頁 東思 而冒着 努力 足損る 良のといきで、さか二子だ 崩が らぞ 胞 ٤. ずるない 力多 か me を 宜 難私 衣 11 加加 04 古文で 産素 産人 緩 たあて収名 る 50 発 気いるる 腑 下的 带作 あり 全程与十日が内い 酒るだっとものもたくいのめ = 17 胞 罗 "牛" 出物" 告 子記が とっまら 府合 有 初行 枕 でする 巴西 子を記る に添入深 帯が 当後の かを あろいける を表た日八小人のでろ 1) 成 可か かもろに りなら 柳花 まなち 脱竹 岩で 不相 甚 急 人を を 心方法 あをに収らす かとつたぎ 誤 非 引きなっきる るさんが 更なの 產 と表えな m 而 引入 指が 禁 いっへそをを 発 11 51 よ 位かず 0) 春 足為 有的 救5 勿多 也 進? 沙尼哥 龙, 功 頭き 伸龙 類で 82 木を か 20 突、て 或 販売 望幸 自" 是 を くりが多むに変あいたむ 甩 胞 肌 2 できず いをならせてどんか 可 失る話 元がえん 胎 日かり 不是 3" 等を 方な 帯が 也是 断で 按む 胆 何仁 別して 故 類だ 夏 を 2 か اديار 後 るよう 勿 をおめ 後股 1= 8 李尔 指が 8 ちきてうらういきかつといもだんをな 麦んて 用 側 鸭智 (3 下り 11 からもいにんだろ 用るか るる 掛 入人 粮 对为多 頭き 用台 計な 結 人日のいてでろ 後" に 勿 時の 子覧 少多 來を よりやごさんいそのでとかあいてるか んのひがを 5 無考 屯 附 所 話で 明横骨上外に 塩を が 姑き 2) き 退多出 あ 不 建 何於 生 取り 是智 建? つちっざむけい 万部 を 帯の 软? 捨 13 則ち 引を 日から 本から 節き 可或 困に 8 致世 情で解り 前罗多 吏 置 紙 府を カに 日たの かよ 者。 5 途かり 崩忽 出物を 11 やり F 胞がえん 可よ 細心をかせる 血艺 1= 中方 7 锺 衣 高をの 有引 時が 産をなか 夫成 人 発 82 10,8 數 覚の 高。 下色 985 取力 3 有家 とる語 產 11 たなな 宜 远过 子名 あるとも 心 が 垂次 2 香! 門 心が 大 桃 早十年で 者と 心海 ナニ 下京 よつきにあており 7月 初 れてつの 34 押盖 2 3 數 鳥きる P 石樓 急 中学 時か 等 其 婦 附 静荡 帯を 施 の第 100 不存 11 Kitasato Memorial Medical Library

党 せ 骨な 力为 節さ 關於 押寺 胎に たいろのそ 7 日多 居的 食" 何的 或 古女多 児さ 時 出っ 症 中の 頭が 白も 1= 日末日 押事 及飞 逆 思 に対す U 者ら 生分 朦古 育 発 頭 居 といると方〇 進 て 持で 水小 來 且爱 為 苦 発 法" 可 取 眼なら 指也 虫な 此 急や チなど 勿たりの 症 頭。 金 0) 頭 1251 以及 服乳 120 カ 小 水水 恐の 4 カゲ を チャ 气动 可以 ももめ 浸当 押节 起で 或 頭質 3 胞 生 8 じっとちゃくそろうなちたただ 統於 何分 頂的 13 全 を 附 為色 則なっ 突き おう 上於 を 者 語詩 持の 居 戻む 產2 思 言式是 道 夫 押為 者 豆真な E 月出 婦な のまる 時5 なるなる 汉艺 E を 8 右き しきが + 小艺 小艺 児を 類系 時 = 55 所が 便人 頭g 便是 # 3 発· 蒸 を 産を 近まで きにかろろことも 量的 湯も 带 か 類と を 可 台 NEX 分 台だびに 眼な 成から 射节 以是 下多 E 却で 北川 11 押中 窜 提制 测色 T 何公 生社 戦智 臭きる 為 水が 尼南 出 甘 \$ 吹 乳艺 者 ルンド 度と 胞で 耳 4 頭 時 置 小のま 掛。 子为 施サ 宜。 進 8 故 (= 用電 押売 人当 発力 予ちな 8 綿 を 出 唇気 て 字 重 级 指也 塩 量为 宜志 155 赤萝 用 元十 涉、 H 知ぶ カバ 節 は初の 素り 禁 海で 中等 地方 頭 金 吸ぎ ぞ 可言 有な 覚に を 冷气 枕 3 恐 自 服影 虚 致 面》 穏は 押制 鱼 生 者たい 可是 悸 声あ 欠的 古む 徐 喻 成 出る 用事 庄う 星是 自 右き 其なのか 可多 110 傷 117 女口 生文 鬼为 横等 急 死為 便能 1 古红 頭星 通 通 烧 産ま 时地 或さ 脉 仰 強に か 心 或声 爲 總言 丁多力 せ 目子与

心多多 胸をきる 時の 下り 日子や 下すらびろ付ろ 世 火 爲 1= またおとでくんぞろの子とちだぞ 故 極む 回は AZA 赤ち 能力 支が 凝む 季 法だ 心と 7 しちを 下女 至な 時の 目 5 左 部3 おち 成为 地ち 者を 0 発け 必 関め にまれ 西星岛 = 3 1= しむれのでる一八きてあだった 上なる 新用せ 震る 治 道眼 おま 日 て 可はあ 者が 卷图 何的 越多 谷文を よなげ の赤を 也よ 115 ち いくう 2 鳥せて 後 至 節手 則於 乳 彼の 換か 放置で 産え 用の 8 用器 心的 けるも ٤ 日があませ 前 汉 0 题尔 階之 TT かけて 153 致 に変 , , 里高 せきへ 药 あなりなくさんきせい 0 疑なら 急去 更多 足了 置さ 塩 8. 7 死去 二分 日間の 方言 变人 時 発ち 2 0 量が 支ぬ 校艺 か を 0 12 まで 発 おお 北东 戸丁ち 前 節 6 中 と同れたる 或表 無多 經 限のをある 1= 倚言 岩志 困ま 後 産も 致言 藥 勿 3, です 台が 取ら 方を 树 ~ 21 可 火え 為英 気き 火き (2 5 持ち 施 眼 発力 捨ば う 勿走 1.8 变小 発を 出世 可去 mus にたち ぞ 金 つ或を 風了 心心 癖也 处5 方り 混 更 8 去个 去なく 拍等 詮 有る 屯 8 久等 頭重 節音 時で 婦是 ち 児が 12 宮 7 日 赤を 托克 咬去 隐急 一げ 強な 類ね 商 を 5 凝 先き 生る 過ぎ を 段を 13 をを 長な 影台 2 致 度と 胞がえん fa! 胎费 発 首 混て 侧定 発を 側框 故

月月の 腫 豆力 服影 後沒 女口 気 酉年 5 可是 7 回 1= 産か か 死ぬ 淮 て 女帯と ゼ 油水 者 者 類至 產 肩 あま 野空 珠书 前切 出之 表為 催人 强 菜中 日の 三四色的 中等 後 苔 严可 何 易的 書き 諸な のかのかい 趣。 満ず 血吸 12 ELE 症 赤方 洗 ,, 然 一分 成 n 管 蛔 7 者の 18 72 12 小茶 9 結員が 分 以で 戰 图意 論 食 測的 꺳 ぞ P 圣 状の 便ん 居う 宜よ 中平 該 E 赤のま 可点 日 000 胞 石皮さけ 可為 無を 次 而 產人 日 子 秀 1.1 分 また 若さ 施 大 可之 泥 黄の 綿 会世又コマ油を空五次水てのめ 宮フ からた 可真可 别态 品象 未家 15温5 元 を またつぎの 日っらんせろ 或が ñ いる 具 0 素り かのだて 悪to B 分 て にて 0 肛 除 可点 考 者 門物 を 酸盐 新 出人 無る THE 戦 12 莞 産ね 楼 生 3 2 形记 用る 耳人 演奏 慄 村家 > 仕 起了 可多 門内 \* 産かって 51 婦ら 北岳う を 热っ 明寺~ 開 3 9 数 耻与 後 小艺 2 竹多 湯き 15 C 物是 女芸 痛芒 可点 凉 自 可 和公 被引 中交ま をす 一ま 致意 食 問令 無 到生态 たであ 录 居 初 量さ む也 洗多 5 が त्रा 勿至 宜为 ゔ 74.5 液 日 3 発力 半克 時等 台 初台 8 三さん 病系 分小 美主 或好 通道 度 門っ 程与

足事性を 夾頁ち 脱气 支を を 眼 からみいない る思而 かていたに収りまではよくなりをあくカンズイのと三人力サトウを大てのもつるぞくまたに又のかよ **米分** 有よ 早中 有ち のもりこ二分 力無 非記 針 心心 多口 きったなるいろから いだり と成一番も湯を リス く 凌鳴高 先自3 W. つがのとき 拔 頭き 日 引擎潜 さま 服が 蹈ぎ ある 論 可子宮は を送 おう きやまいになる 成的 止よう 長 赤 児ゲ 5 肩と がも油を な。五 兼て 践了 可之 サン ホカリをい 数と 灰さく 西车 F 4 可 選ぎ 卑力 刺為 海葱赤 もここのかぞうないんとれでとりまててたできょうそつべのか 汁を早 9 臼 或於 12 またさや 十二日 思了 撞孔 一産前 当人英 念 産る 戸ケド 痛艺 麝香三分服 肠, 日探宮扇巻路 老見ないだち 小ななのと 不? 赤一分 訴 **※交** を言うでいたりずり 用等何火 一ちど 5 四号 に計成 後建 があた 挹 P 軽哨 ひどこがいたてる ギモヤシをふ ゆかつかきぬ ぞわれいちをらのぞ又ご 又い下きたのむるよ 易成为 和京 にはき 座門が変を 時為多 \$ 台 血を 7 8 0 いなまたころ きが 水が 節語 上が 热气 吸, 或 月重 旁が 服の 石收 大节 からくいっざろ 質なり 長 草草 11 3 アラジア大一へての 第日 所下按せ 出 11 せ つる 一後のない 死者 消魚 却 + 引 カ ○さんご大べん七八日小べんい一日位つ小芸をよい一人とこどと もときといるまったのろの 可是 を合服可服 のやまい子にうら 元から 腫う + 無路 にも 品あ 針 かより 7 腨 も覚 8 1= 塩 り真き お ぞのな まだで な 足 友 そ な おきしかんぞ 三リ 31 必至 も就 柿 ふかち 後 とこむらのまちをうるめいたを有レイヨウカクのこ四かのあ 痛炎 耳 卵巣並 後的 不常 罗季 少赤 合地 殊を 棘鳥 苦 一一 秦轉 9 後 推 てる ガ 〇子つがってきてたかのいあと をつけ 水分 治等 に やすをいっろ そ利をして 一無 或 乱を 衣 更占为 子 故 女子 宫征 子克 キリの 石 が 臨 白七 女口清 維 维 を 者の 軽痒 透 佐ま 00 禄 赤二分 成 冒 宫 長途发に労助 めて何い 者を 明智 日 類。 讀 0 ぞりたがり は知る 者から 数书 5 火, 产 談 P につま 産や 五月 き 利 を 時 門分 輕 長が 病 女" 突為 ガ 月色 粉 ニリ て 有 足了 立生 10 右

後いい を覚め 舌公 强 可為 胎 3 ス かけ 赤一分あせ 力口き 可 版た 用な 無 死 BULL 者む 多日 阻力 終京 me 5 却を 里的ちの 初 治 西 ま自 大

٤ 男か 扱う 而艺 极小 小る 者 居 志 は、主 語詩 新生 深 人目にいてせれとあついま 方色あ 臨 足夫等 とは ,, 1= 產 陽 を心づ 後さで 何を 脉。 住 多一点 論為 故に 村。 崩な 者 10 脇 非異人 捨と 石荒 方 生产且其 血力 下 かる 證 者る 即包含 9 をや 者 而元 撮り 致 衣 悪 可 CAS. 胞影 也 志 衣がり 居。 故る 立法 根 至 与る 皮き を 定め 此 故さ せ"け で者 不 食 かりも 量か 者 温 戦 下てた月やくがに分に上て白まのが下るべてしたした 而志 今がかれたおき **炒**可 いかん \*\* 击が 産 をあてに 並 155 脇 婆を しにうつ 而ぞ 無 施引 志和り 難人が産 症や を加ま が心意 かの 5 志 17 慈 ちゃいたるかいおれるのぞ 安の 用過知無 飲いいま 共 完" 施 田 産が 言義も 至京 ちまるの 悲な 甚っ 施 呼了 仙為 而的 看 をあ 悪 術 発 孕为 莉な 女等 量者 告为 垂ぎ 語為 前 取 途 女帯と 身記 後ろ 並 者 き血う 天意 並-古女が 不 何に 水塩たっ 心禁 施う 1= 1 3115 か かた今のからしてきならてあてるとうのからならできていた人のもものできならてあてるとう 疑 を月包え 品片 とだと 葉茅 之意的 何於 小ちる 並え 致多 後 努 かくかくかん 快 を 力 か 並 成を 者 趟 愁為 一のまい 孙行马 mil.

を控える 赤から 公子。 加力 腹で 日無っ 女中せ 妙なが 伊 2 立 小小 思? 女艺 頭 更 能 P 15 無 麦り 念i アラビア 近点 然古出 遊 年う 想表 石 中人 心持 胎 五天 自 五分 頭 時 未でも 附着 月台 幸七 水ら 着 不売 女口 眼的 神色 女等 忽; 笑其 破た 沙土 前之 ちち 干包委宫中干宿卵花 産を 福里 妙 此意 于 說 発力 min. 是 时 塘中 石母で 俗文 天外雅 建元 夫也又 **志** 供 加 加 加 中亚 一志け 夢も 外田条 而 支口が 血力 天心 面员 12/1 管於 135 可 利 面が 省女· 傳心、 新起! 底の 胎 郡 画 而高 日 忘 日中 刻 利塩 固 生症 以类 日午書館 14 △· 服され 治为 胞 仙花 正 可多 新 可 胞 衣 旧 指, 127 引 力也で

Kitasato Memorial Medical Library

5

言古名

吉克

1=8

登り

Det.

18

公票風

忽

季

8

竹鱼

消費

するりっち モデ 三五八十月 三六九五月

面胡粉七 さげてきくちょうけを 安達是馬從聖傳方 をたできかきした方 ひ 先のかかかってきて夫 久五倍子 ホ十久 らろずとこぞれそったは 八月十五日

